

**「保健医療科学」
第 53 巻 第 2 号 予告**

学校保健危機管理 (仮題)

学校における事故防止 (仮題)	田中哲郎
地域におけるリスク管理の観点から (仮題)	詫間晋平
危機管理プログラム「非暴力的危機介入法」(仮題)	新福知子
学校における集団食中毒とその対応 (仮題)	尾崎米厚
青少年暴力対策研究の動向 (仮題)	加藤則子
文部科学省「子どもの居場所づくり事業」について (仮題)	文部科学省「子どもの居場所づくり」推進室

編 集 後 記

本号の特集「日本の精神保健と福祉の課題と展望」は、2002年1月17日に本院で開催された第1回保健医療福祉セミナーを基本として、同一のテーマで企画されたものです。精神障害者に対する社会サービスは極めて重要ですが、遅々として進まない社会復帰問題や人権問題に対する強い関心と、それらに何らかの貢献をしたいという思いが錯綜します。

精神科医療提供の場であるクリニックや病院外来は、どのようにすればよいのか。入院中の生活や医療のどこを改善するのか。何よりも地域における各種サービスをどのように組み合わせ、どのようにシステム化するのかなど、あまりにも課題は多く、その優先順位の決定すら十分にできていないようにも考えられます。

当院では、これらの課題に対し、有効でエビデンスに基づく社会的貢献が一層可能なようなチーム作りや体制の整備に、今後とも努力したいと考えております。

1795年にフランスの女性のための総合施療院であるサンペトリエールの管理者になったフィリップ・ピネルは、精神障害者が拘束されていた鎖を廃止し、「理性の能力を発達させる指導」により社会復帰が可能になることを示しました。この近代精神医学の父が、今生きていれば、わが国の精神保健医療福祉をどのように評価するでしょうか。まさか、「200年間の進歩はたいしたことないな」とか、「精神障害に対する地域の理性が問題だな」などということにならないことを祈ります。

(小山秀夫)